

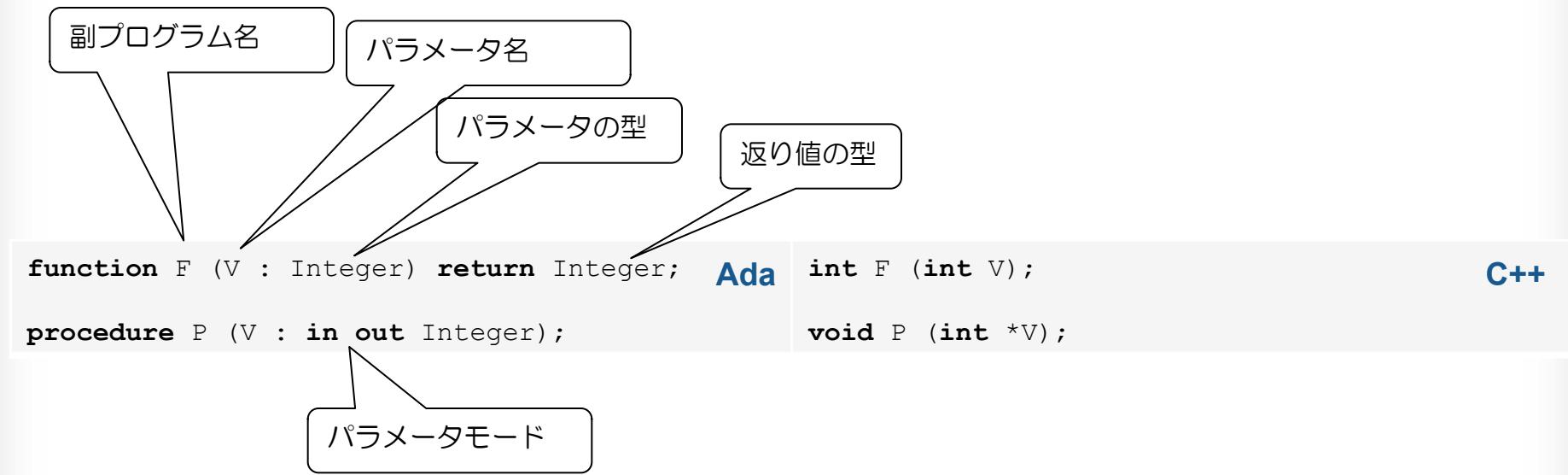


副プログラム

Presented by Quentin Ochem

university.adacore.com

Adaにおける副プログラム: 仕様部



- Adaは、関数（値を返す）と手続き（値を返さない）を区別します

Adaにおける副プログラム: 宣言とボディ部

宣言

```
function F (V : Integer) return Integer;
```

ボディ部

```
function F (V : Integer) return Integer is
    R : Integer := V * 2;
begin
    R := R * 2;
    return R - 1;
end F;
```

- ・ 宣言は必須ではありません。しかし、利用する前には、宣言が必要です
- ・ 関数の返値を無視することはできません
- ・ 完備化 (completion) / ボディ部の実体は、「is」以降に記述します

パラメータモード

- モード「in」
 - 実パラメータが、変更されないことを仕様化しています
 - 仮パラメータは、読み込みのみが可能です
 - デフォルト（パラメータ）モードになります
- モード「out」
 - 実パラメータは、更新される可能性があります
 - 仮パラメータは、書き出し用ですが、値の読み出しも可能です
 - 初期値は定義されていません
- モード「in out」
 - 実パラメータは、読み出しと変更が行われます
 - 仮パラメータは、読み込みと更新が行われます

```
function F (V : in out Integer) return Integer is
    R : Integer := V * 2;
begin
    V := 0;
    R := R * 2;
    return R - 1;
end F;
```

パラメータ受け渡しメカニズム

- コピー渡し (by-copy) と参照渡し (by-reference)
- コピー渡し
 - 仮パラメータは、実パラメータと異なるオブジェクトとなります
 - 実パラメータのコピーが呼び出し前に仮パラメータに設定されます
 - 仮パラメータのコピーは、呼び出し後、実パラメータにコピーされます
- 参照渡し
 - 仮パラメータは実パラメータと同じものを参照します
 - 仮パラメータの更新は、実パラメータに直接、影響を与えます
- パラメータの上記選択の制御機構
 - 相当するパラメータモードはありません

規格化されているパラメータ受け渡し規則

- 「コピー渡し」の型
 - スカラー型
 - アクセス型
 - 「コピー渡し」型として、完全に定義されている非公開型
- 「参照渡し」の型
 - タグ付き型
 - タスク型および保護型
 - 限定型
 - 参照渡しの要素型を持つ複合型
 - 「参照渡し」型として、完全に定義されている非公開型
- 実装定義の型
 - 「コピー渡し」要素のみを含んでいる配列型
 - 「コピー渡し」要素のみを含んでいる非限定レコード型
 - 効率的な方法による実装選択

サブプログラム呼び出し

- ・ パラメータがない場合、括弧「 () 」はつけません

```
function F return Integer;  
  
V : Integer := F;
```

- ・ 名前付き引数を利用可能です

```
procedure P (A, B, C : Integer);  
  
P (B => 0, C => 0, A => 1);
```

- ・ out モードと in out モードでは、オブジェクトが必要です

```
procedure P (X : out Integer);  
  
V : Integer;  
  
P (V);
```

デフォルト値

- 「in」パラメータは、デフォルト値を持つことができます

```
procedure P (A : Integer := 0; B : Integer := 0);
```

- デフォルト値は、動的な式です。明示的な式が与えられていなければ、呼び出し時点で評価されます

```
P;           -- A = 0, B = 0;
P (1);       -- A = 1, B = 0;
P (B => 2); -- A = 0, B = 2;
P (1, 2);   -- A = 1, B = 2;
```

不定パラメータと返り値

- サブプログラムは、不定パラメータと返り値を持つことができます

```
function Comment (Stmt : String) return String is
begin
    return /* & Stmt & */;
end Comment;

S : String := Comment ("a=0"); -- return /*a=0*/
```

- 制約は呼び出し時点で計算されます
- 境界に前提をおいてはいけません

```
procedure Init (Stmt : in out String) is
begin
    for J in 1 .. Stmt'Length loop -- Incorrect
        Stmt (J) := ' ';
    end loop;
end Init;

S : String := "ABCxxx";
begin
    Init (S (4 .. 6));
```

別名化

- Adaは、「明らかな」別名化のエラーを見つけることができます

```
function Change (X, Y : in out Integer) return Integer is
begin
    X := X * 2;
    Y := Y * 4;

    return X + Y;
end;

One : Integer := 2;
Two : Integer := 4;

begin
    Two := Change (One, One);
    -- warning: writable actual for "X" overlaps with actual for "Y"

    Two := Change (One, Two) - Change (One, Two);
    -- warning: result may differ if evaluated after other actual in expression
```

オーバーロード(1/2)

- Adaでは、サブプログラムのオーバーロードを使用できます

```
procedure Print (V : Integer);  
procedure Print (V : Float);
```

- 次の点で仕様が異なれば、オーバーロードを使用できます

- パラメータの数
- パラメータの型
- 結果の型



```
subtype Positive is Integer range 1 .. Integer'Last;  
procedure Print (V : Integer);  
procedure Print (W : out Positive); -- NOK
```

- 仕様において下記のアスペクトの違いは、オーバーロードの対象となりません
 - パラメータの名前
 - パラメータの副型
 - パラメータモード
 - パラメータデフォルト式

オーバーロード(2/2)

- ・ オーバーロードを用いると、呼び出し時点であいまいさが生じる場合があります
- ・ 情報を付加することで、このあいまいさを取り除くことができます

```
type Apples is new Integer;
type Oranges is new Integer;

procedure Print (Nb_Apples : Apples);
procedure Print (Nb_Oranges : Oranges);

N_A : Apples := 0;

begin
  Print (N_A);           -- OK
  Print (0);             -- NOK
  Print (Oranges'(0));   -- OK
  Print (Nb_Oranges => 0); -- OK
```



演算子オーバーロード

- デフォルト演算子 (`=`, `/=`, `*`, `/`, `+`, `-`, `>`, `<`, `>=`, `<=`, `and`, `or`...) は、型について、オーバーロードしたり・加えたり・取り除くことができます

```
type Distance is new Float;
type Surface is new Float;

function "*" (L, R : Distance) return Distance is abstract; -- removes "*"
function "*" (L, R : Surface) return Surface is abstract;      -- removes "*"
function "*" (L, R : Distance) return Surface;                  -- adds "*"

type Rec is record
    Unimportant_Field : Integer;
    Important_Field : Integer;
end record;

function "=" (L, R : Rec) return Boolean is
begin
    return L.Important_Field = R.Important_Field;
end "=";
```

- 「`=`」のオーバーロードは、自動的に関連する「`/=`」のオーバーロードを生成します

副プログラムのネスト化と広域変数へのアクセス

- ・ 全てのスコープで副プログラムをネスト化することができます
- ・ ネスト化された副プログラムは、親の副プログラムパラメータや既に宣言されている変数にアクセスできます

```
procedure P (V : Integer) is
    W : Integer;

    procedure Nested is
        begin
            W := V + 1;
        end Nested;
    begin
        W := 0;
        Nested;
```

ヌル (null) 手続きと式関数

- ボディ部を持たない副プログラムは、ヌルとして宣言することができます（実際の利用法は後述します）

```
procedure P (V : Integer) is null;
```

- 式の評価のみからなる関数は、仕様部レベルで完結することができます。これを式関数と呼びます

```
function Add (L, R : Integer) return Integer is (L + R);
```

- これは、事前／事後条件を記述するための便利な方法です



? Quiz



正しいですか

(1/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
function F (V : Integer) return Integer is
begin
    Put_Line (Integer'Image (V));
    return V + 1;
end F;

begin
    F (999);

```



正しいですか

(1/10)



いいえ

```
function F (V : Integer) return Integer is
begin
```

```
    Put_Line (Integer'Image (V));
    return V + 1;
end F;
```

```
begin
```



```
F (999);
```

関数 F は呼ばれますか、返り値を保持していません



正しいですか

(2/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
procedure P (V : Integer) is
begin
    V := V + 1;
end P;
```



正しいですか

(2/10)



いいえ

```
procedure P (V : Integer) is
begin
  V := V + 1;
end P;
```



コンパイルエラー
Vは、(デフォルトの) in モードであり、更新することはできません



正しいですか

(3/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
function F () return Integer is
begin
    return 0;
end F;

V : Integer := F ();
```



正しいですか

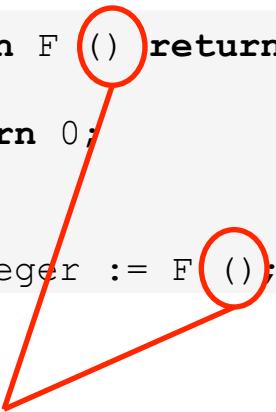
(3/10)



いいえ

```
✗ function F () return Integer is
begin
    return 0;
end F;

✗ V : Integer := F ();
```



コンパイルエラー
パラメータがない場合、括弧を用いることはできません



正しいですか

(4/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
procedure P (V : Integer) is
    procedure Nested is
        begin
            W := V + 1;
        end Nested;

        W : Integer;
    begin
        W := 0;
        Nested;
```



正しいですか

(4/10)



いいえ



```
procedure P (V : Integer) is
    procedure Nested is
        begin
            W := V + 1;
        end Nested;

        W : Integer;
    begin
        W := 0;
        Nested;
```

コンパイルエラー
Wは、この時点ではまだ可視性がありません



正しいですか

(5/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
function F return String is
begin
    return "A STRING";
end F;

V : String (1 .. 2) := F;
```



正しいですか

(5/10)



いいえ

```
function F return String is
begin
    return "A STRING";
end F;
```



```
V : String (1 .. 2) := F;
```

実行時エラー
VのサイズとFが返す値があっていません



正しいですか

(6/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
procedure P (Data : Integer);  
procedure P (Result : out Integer);
```



正しいですか

(6/10)



いいえ

✗ ~~procedure P (Data : Integer);
procedure P (Result : out Integer);~~

パラメータ名とモードの違いだけでは、オーバーロードするには
十分ではありません



正しいですか

(7/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
procedure P (V : Integer := 0);
procedure P (V : Float := 0.0);
begin
  P;
```



正しいですか

(7/10)



いいえ

```
procedure P (V : Integer := 0);  
procedure P (V : Float := 0.0);
```

```
begin
```

```
P;
```



コンパイルエラー
単にPと呼び出すだけではあいまいです



正しいですか

(8/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
procedure Multiply
    (R : out Integer; V : Integer; Times : Integer)
is
begin
    for J in 1 .. Times loop
        R := R + V;
    end loop;
end Multiply;

Res : Integer := 0;
X : Integer := 10;
begin
    Multiply (Res, X, 50);
```



正しいですか

(8/10)



いいえ



```
procedure Multiply
    (R : out Integer; V : Integer; Times : Integer)
is
begin
    for J in 1 .. Times loop
        R := R + V;
    end loop;
end Multiply;

Res : Integer := 0;
X : Integer := 10;
begin
    Multiply (Res, X, 50);
```

誤りやすい

Multiply 手続きに入るとき、R は初期化されていません



正しいですか

(9/10)



はい
(チェックアイコンをクリックする)
いいえ
(エラーの場所をクリックする)

```
type My_Int is new Integer;

function "=" (L, R : My_Int) return Boolean;

function "=" (L, R : My_Int) return Boolean is
begin
    if L < 0 or else R < 0 then
        return True;
    else
        return L = R;
    end if;
end "=";

V, W : My_Int := 1;
begin
    if V = W then
        ...
    end if;
end;
```



正しいですか

(9/10)



いいえ



```
type My_Int is new Integer;

function "=" (L, R : My_Int) return Boolean;

function "=" (L, R : My_Int) return Boolean is
begin
    if L < 0 or else R < 0 then
        return True;
    else
        return L = R;
    end if;
end "=";

V, W : My_Int := 1;
begin
    if V = W then
    ...

```

「=」演算子について、無限の再帰となります
変更することで、問題を解決することができます。例えば、Integer (L) = Integer (R) です



正しいですか

(10/10)



はい

(チェックアイコンをクリックする)

いいえ

(エラーの場所をクリックする)

```
type Rec is record
    A, B : Integer;
end record;

function "=" (L : Rec; I : Float) return Boolean;

function "=" (L : Rec; I : Float) return Boolean
is ...
    A : Rec;
begin
    if A /= 0.0 then
        ...
    end if;
end;
```



正しいですか

(10/10)

はい



```
type Rec is record
    A, B : Integer;
end record;

function "=" (L : Rec; I : Float) return Boolean;

function "=" (L : Rec; I : Float) return Boolean
is ...
    A : Rec;
begin
    if A /= 0.0 then
        ...
    end if;
end;
```

問題ありません
「=」の宣言は、暗黙に、「/=」の宣言を作ります



university.adacore.com